

登米祝祭劇場の玄関に
縦〇・九メートル、横六・五メートル
もある看板製の絵画が飾
られている。題して「登
米のまほろば」。作者は
登米市の印刷会社員、秋
山清人さん(57)。秋山
さんの描く作品は、見る
人の心を温める、ほのぼ
のとした筆致が特徴だ。

岡芝居「髪結新三」の公
演ボスター原画、劇団「ド
リーム・キッズ」のシン
カンバスは上質紙など
のとした筆致が特徴だ。
ボルマークなどを描いて
を保護するのに使った厚
紙。構図が決まると水彩
で「登米のまほろば」に見入る秋山清人さん
=登米祝祭劇場

自然の中でも宝を探す

水彩画と歌でつづる古里賛歌



登米祝祭劇場館長

山田 悅且

民劇場「夢フェエスタ水の里」に使うポスター原画。「舗装道路でも土の道にも甘えてしました。昭和40年代。秋山さんは愛知県内で8年ほど働いた。戻った時、軽便鉄道など、あるはずの光景が消えていた。変わらぬ古里。変わらない愛郷心。「登米の宝は自然。失わした足柄町の唄」「米

で一心不乱に4、5時間。

五行さんに出会った。鬼

員をしながら、佳作を世

に問っていた。

雲の下

だった。過疎の島と真摯に向き合う姿勢

が読み取れたからだ。

秋山絵画に触れた時、

この句と同じ印象を持

た。

11月初旬。秋山さんは

登米市東和町米谷から同

市中田町浅水に引っ越し

た。北上川の左岸から右

岸に住み替えたのだ。川

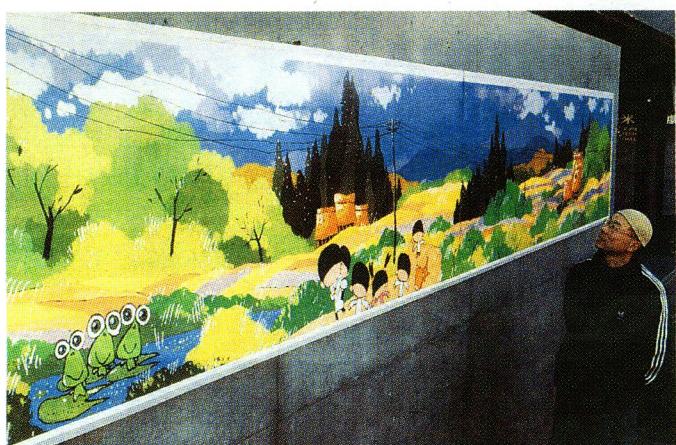
東から見守ってきた登米

を、川西からの新視点で

どう切り取るのか。楽し

みがまた一つ増えた。

ふるさとの宝は何か
懐手して日高見の川
面に問へり ◇



「登米のまほろば」に見入る秋山清人さん

=登米祝祭劇場